

ガバナー四方山話

第5回 ネイティブ・アメリカン

アメリカに住んでいる間は、仕事に時間がとられた為アメリカ国内を観光して回ることはあまりできず、西海岸のヨセミテ公園とレイク・タホに行ったくらいしかありませんでした。会計事務所を辞めて札幌に住むようになってから、関与先にアリゾナの大自然と、そこに居るインディアンの方々に興味のある経営者がいらして、通訳がてら同行させてもらい、お陰でグランドキャニオンなどアリゾナ州とユタ州にあるアメリカの誇る世界自然遺産を存分に回ることが出来ました。

アリゾナ北部にはいまだに居留地があり、そこに居住しているネイティブ・アメリカン（と呼ばなければいけない時代です）にはいくつかの種族があり、あまり仲が良いとは言えません。羊を追いながらの生活ではるくに食べられませんから、政府の定めた居住地に住んでいる方々にはフードスタンプが配給され、それで食料を調達しています。

毎年7月の第1週にサンダンスと呼ばれる、神様に感謝をする儀式がアリゾナの高原で執り行われますが、白人は参加できません。でも、有色人種の私達は入れてもらえて、4日間夜明けから日暮れまでドラムのリズムで踊るといってお祭りを何度か経験させてもらいました。メディスンマンがお祭りを取り仕切りますが、標高2,000mくらいの高原でのキャンプは、昼間は摂氏40度、早朝は10度くらいという寒暖の激しいところでの野宿はなかなか野性味のあるものでした。

最初に行った時にとっても素敵な経験をしました。標高が高く空気が澄んでいて雲もなく、満天の星空を堪能することが出来ました。新月ということもあり、東の地平線から西の地平線まではっきりと分かる天の川はまるで自分を包むような感覚で脳裏に焼き付いています。それが毎晩で別世界でした。また地平線に近いところでは、流れ星をしょっちゅう見ることが出来ました。

また、現地の方が飼っている羊を1頭分けて頂き、お代はちゃんと支払ってですが、参加していた日本から来られた方達と分けて食料としたのですが、その年は干ばつだったせいで、その羊はやせていて、でもセージという香草を食べていたせいか、生肉の香りが実に麗しく肉をさばいた手を洗いたくないという気分になったのは後にも先にもこの1回だけの経験でした。

生の羊肉を塩とニンニクでもんだものはとても美味しく、また軽く塩を振って集めた枯れ木を焼いて炭状になったものでじっくりと焼いたお肉を食べてもこの羊肉は絶品でした。

グランドキャニオンの周囲には多くの遺跡があり、途絶えた種族も沢山いたことが観光スポットの説明文に書かれています。先住民族が住居としていた絶壁のあるキャニオンや、ピンク色の砂で出来た砂丘、水に削られ幻想的な光の名所アンテロープ・キャニオン、地形的にこの世のものとは思えない岩が林立しているブライス・キャニオンなど北部アリゾナからユタ州にある大自然は是非一度ご覧になって頂ければとても良い思い出になることは間違いありません。